



立川新書

三上

立



~ 13  
3097  
3



門 13  
3097  
卷 3

酉

墨田川梅柳新書卷之三

東都 曲亭主人著

六 盛景影江不亂時を綴と

仁科平九郎盛景が冢子惣太の十二のじふ喜瀬川と逐電走くより武藏國江戸の片むらり。忍が岡をめぐり迷ひ舟を酒屋何れかとしりあひの情ある男少くそのよるべあれたを憐れ家おとめて小厮とせし西三年養ひおれたる元來公ごぬよかり秘の忽地再生の恩を忘却し主人の錢居多盗とくし逃さるれあつる不熱太の成長あつて身長六尺ふあすり。旅力人の勝れし相撲柔術なをし且彦表道が伎小人圍く只顧不義の賊を彼地と徘徊し悪き友とのと眠ひ相談よろづおの隨小舉動も徒も彼右へあつるのあつて。忍の壯夫とを稱けぬ。この忍が岡より

昭和九年  
七月二十四日  
東京

成長とてかくく惣太の東海道を竊行妹と女子が扱撃しこれを  
遠く湊へ傳通せしむ。その身價小くの子ありて、淫酒の爲に遺  
捨たり。又入間村平太麻羽愿哲といふ二人の支黨あり。彼亦行僧不  
扮く惣太の隨ひり。亦悪行をなさしむ。その出沒武藏野の凶水  
より定るるべし。鎌倉より追捕せしむ。その所在をれどそ  
す平太愿哲の龜鞠親子が薩陀山に麓に宿りし夜惣太が  
親族ありしを告ぐ。途よりつけありてその家不歇り。夜深く電鞠  
を却し行李とも小集ひ去りて。山あぐ逃れ登りし不忽地電鞠の  
俳優不謀計られ。二人存く海面へ輾落ぬ。惣太も亦水立小月の影  
く暗く。父平九郎といふものもいひ。挑戦とれ。岨と踏外て前  
不浪墮るす。平太が上ふ落りさありし程小聊も身と傷ふ。この外波

も予く僅小膝の節を浸さむ。うりあれば中より身を起して。入るす。平太  
の落りし。岨石小頭を打碎さん。腦みを出し死せられ。愿哲の手足を少  
打傷し。そのあぐ。巖の間小挟し。蠢と居る。惣太呼く。けく。その  
愿哲のあぐ。なるといふ。彼も又惣太がく。小落るるをあり。且驚き。且飲  
扶起され。跣物も手元。す。平太も負ひつ。落られ。行李を探當か。むあり。  
このいふ。まき。と。いふ。惣太に。い。探り。是を徒。流。中。お。る。る。や。い。  
あ。い。ま。い。れ。り。い。ん。と。と。づ。取。楚。と。背。負。ひ。二。人。ら。じ。く。這。く。  
西の濱方より上る。ゆ。む。舊の山路。小登り。これ。旅人も。美女。も。い。り。  
地行。ん。影も。さ。め。ど。新地藏堂。小置。り。笈。え。あ。なり。お。れ。と。命。拾。  
ひ。と。刃の。車。ゆ。山。を。東。へ。走。る。り。夜。あ。け。く。件。の。行李。と。入。ま。す。と。  
や。ある。牌。と。著。く。仁科平九郎と書。写。し。て。あ。れ。ば。大。お。驚。ま。す。と。て。昨。夜

海印新書卷之三

二

愿哲おが奪ひ取りし少女の妹亀鞠少く。挑と戦ひし父ありきと  
 ありき。さごとくめ法す。縁由と密語ハ愿哲少く。慙愧せり元此  
 惣太ハ梟思無雙の奸賊あれハ親兄弟の身を敢て遣ふもあ。福と  
 又おほつりた所もあ。志のび。喜瀬川に到。外。愿哲お父の  
 と。平九郎ハ如此。の故ありて。日亀鞠を将。旅。ぬと  
 づ。於。惣太ハ疑念。解。から。笑。され。親の人  
 と組。一度も後。し。車。い。ひ。も。薩陀山より。滾  
 落。され。父と挑と戦。千引の石。動。親。も。親  
 とねりの。吐く。愿哲。足柄越。相。換  
 路。起。平九郎盛景。の。ひ。も。薩陀  
 巔。路。銀行。失。加。千尋の底。滾。落。荒。男。を

こが子惣太と措。更。彼。像。見。た。笑。用。同  
 國の行者。打。扮。龜鞠。を。折。姿。の。親。子。先。方。後。方  
 あり。昼。人の。門。立。在。一。椀。の。飯。を。夜。月。漏。樹。蔭。に。臥。す。千  
 種の床。露。を。拂。ひ。と。三。河。國。矢。矧。の。御。事。折。し。も。  
 鎌倉武士。と。お。ぼ。し。夥。の。從。者。を。將。追。ひ。来。り。矢。庭。平。九。郎  
 を。取。お。え。轉。し。縛。ち。れ。平。九。郎。大。驚。を。こ。ら。ぬ。は。ね。元。小  
 干。過。か。人。違。な。ま。い。ひ。を。い。せ。も。あ。く。彼。武。士。声。を。立。止。め  
 既。天。の。羅。不。係。り。な。ま。ほ。あ。の。腕。と。れ。放。近。曾。忍。の。惣。太。と  
 一。癡。者。東。海。道。と。編。歷。の。外。笠。を。戴。と。笈。と。背。お。り。同。國。の。行  
 者。打。扮。又。二。人。の。支。黨。と。行。僧。打。扮。せ。り。人。の。女。兒。と。扮。撃。し  
 非。道。の。行。と。い。ふ。既。鎌。倉。お。之。執。權。義。時。朝。臣。の。命。ふ。よ。う。し。



海平介



海平介



公持せり。この時日も中暮あんとし。雨入あつ。摩訶鉢頭木。父より  
 遙み走り過。矢矧の橋の上より待たせり。あはれもあはれも。あはれもあはれも。  
 又舊の路へ立ち。目今父が縛らる。とてん。大に驚き。あはれもあはれも。  
 救んとく走り。よきまきせし。借と心つ。あはれもあはれも。あはれもあはれも。  
 尋思し。並松の蔭に居る。首尾と立す。い。警  
 さ愁ひ。薩陀山あつ。のりを告る。その賊へ。見あはれ。あはれもあはれも。  
 せし。父もこれを。故不明。白あ。告め。あはれもあはれも。あはれもあはれも。  
 主従と謀計。父を救ひ出せし。既。定め。直。間道より走。  
 わけ。亂時。道の次。只。降。雨。濡。あはれもあはれも。  
 潜然と泣居。伊庭十郎。亂時。科平九郎。盛景。鎌倉。追放  
 せられ。あはれもあはれも。総角。あはれもあはれも。只。顧。忍。あはれもあはれも。

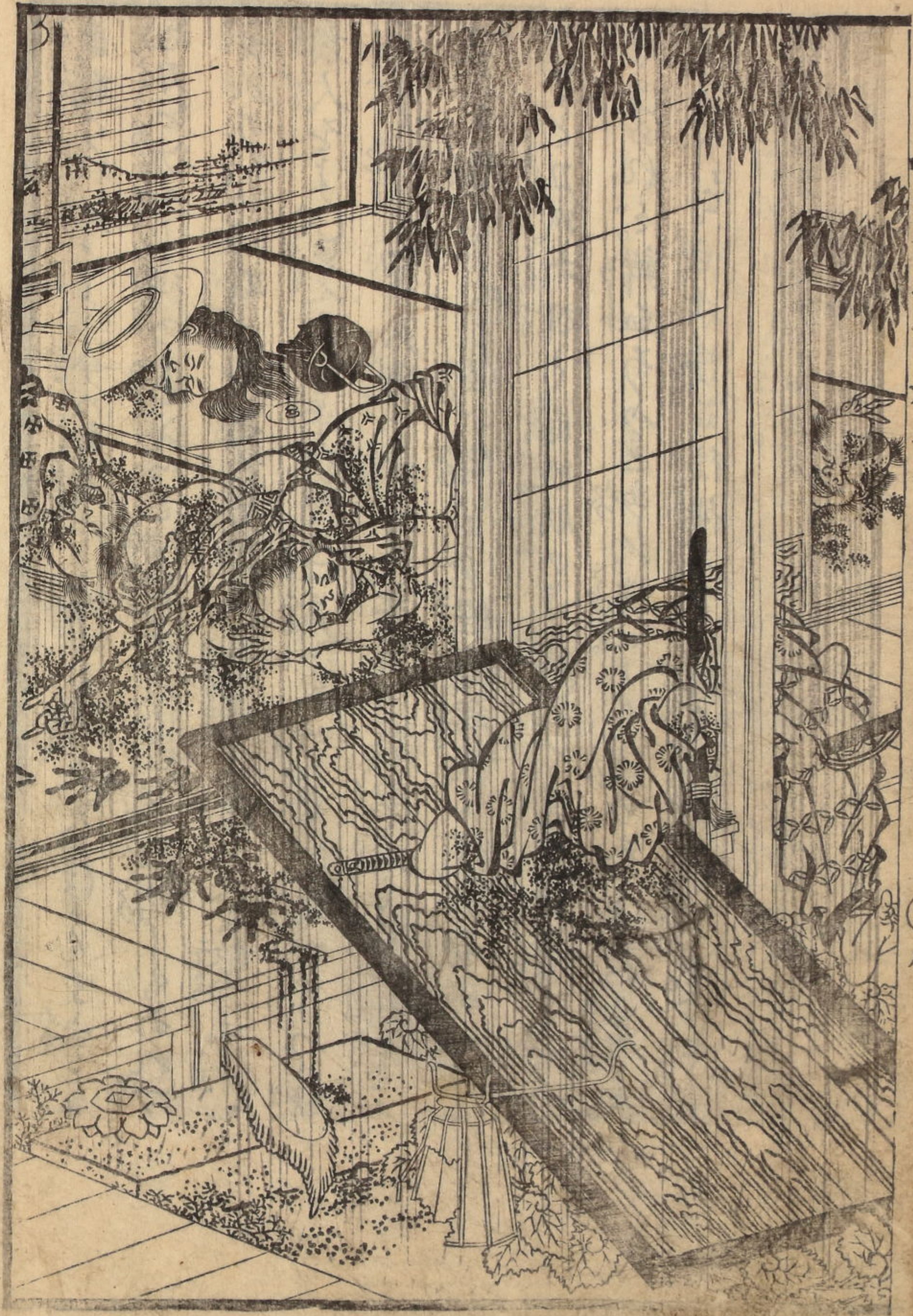
おのひ。東の街へ引。一里塚のけ。艶麗る。少女の  
 身へ濡。涙の雨。降。あはれもあはれも。あはれもあはれも。  
 立ち。あはれもあはれも。あはれもあはれも。あはれもあはれも。  
 町。商人。何。女見。あはれもあはれも。あはれもあはれも。  
 伴。ね殿。正。謙倉。武士。あはれもあはれも。あはれもあはれも。  
 再生の。恩。あはれもあはれも。あはれもあはれも。あはれもあはれも。  
 亂時。黙。あはれもあはれも。あはれもあはれも。あはれもあはれも。  
 盛景。指。あはれもあはれも。あはれもあはれも。あはれもあはれも。  
 拘。あはれもあはれも。あはれもあはれも。あはれもあはれも。  
 事。あはれもあはれも。あはれもあはれも。あはれもあはれも。  
 告。あはれもあはれも。あはれもあはれも。あはれもあはれも。





通霄よく守りて。殿の仰けり。何の暇あり。酒の枝ぶる。常言ふ。死せ。虎の生。及。と。い。や。彼。賊。い。ふ。猛。く。も。巖。く。縛。れ。ば。檻。の。獸。ふ。じ。酒。を。飲。じ。と。い。ふ。人。は。え。く。あ。ら。せ。よ。又。飲。ん。と。あ。の。の。二。人。む。り。れ。と。と。い。ふ。身。づ。う。ひ。い。松。あり。て。し。り。走。り。せ。う。く。二。樽。の。酒。ふ。よ。れ。け。り。流。く。掃。り。て。ま。ぬ。て。件。の。酒。殺。を。安。排。お。の。く。團。中。あ。く。盃。を。右。お。め。ら。じ。左。に。巡。り。し。酒。を。あ。ひ。く。飲。む。よ。電。鞠。か。れ。席。お。物。馴。ら。白。拍。子。の。の。り。な。れ。ば。彼。不。強。と。れ。は。勸。め。ら。ふ。と。い。ふ。賢。が。り。り。ける。老。者。も。堪。う。程。諸。人。を。掻。き。け。し。引。受。く。飲。ま。れ。ば。夜。の。い。く。深。く。と。い。ふ。と。お。の。く。泥。の。ご。く。酔。く。豎。不。郎。横。不。転。び。果。へ。射。の。声。の。高。

電鞠これとて。今へ公易く。嬉しく。酒。不。父。が。け。り。よ。歩。と。奇。く。懐。あ。る。短。刀。を。拔。出。し。縛。の。索。を。切。解。く。志。し。密。語。折。り。も。あ。れ。一。人。酒。を。嗜。む。の。あ。り。睡。む。あ。り。し。る。の。景。迹。と。い。ふ。大。に。驚。馬。と。声。を。あ。り。立。て。衆。人。を。よ。び。え。ま。を。平。九。郎。ハ。二。声。も。叫。び。せ。と。走。り。つ。枕。方。あ。る。刀。を。奪。う。と。切。き。破。と。倒。れ。死。り。し。れ。衆。人。も。この。肝。響。ふ。や。え。て。い。ふ。ふ。と。駭。き。し。る。酒。の。酔。い。を。醒。ど。起。ん。と。い。ふ。輾。轉。を。平。九。郎。と。得。た。と。い。ふ。刀。が。打。揮。く。向。脛。肘。の。こ。い。ひ。み。く。當。れ。瓜。幸。一。人。を。残。さ。ず。切。る。は。れ。れ。鮮。血。あ。り。と。出。れ。傷。口。より。酒。の。香。を。け。屍。を。秋。の。暮。踏。ら。し。と。い。ふ。酩。酩。れ。掃。め。彷彿。と。い。ふ。伊。庭。十。郎。胤。時。と。す。一。回。瓜。隔。く。と。い。ふ。燈。不。對。ひ。鎌。倉。へ。あ。り。し。驛。邊。の。書。呈。瓜。書。字。と。あ。り。し。不。肝。響。遠。不。け。え。と。い。ふ。筆。瓜。と。い。ふ。耳。を。削。つ。と。い。ふ。ち。う。く。人。の。足。音。と。い。ふ。



亀朝ハ  
伊庭ガ  
従者ト  
酒ニ酔伏  
サセ父ノ  
傳トシ  
解バ  
平九ガ  
悉ク此徒ト切害シ  
剩伊庭ヲ討ク  
三十金ト奪ク  
親子影江ノ  
旅宿ト  
脱去ス

誰とて問ひ。矢矧より伴とすわつせしれ女子なりと答ふ。亂時入る。今外  
面の頻ふさうがたの何みぞ。同小電鞠そののみあがり。殿の從者ひそ  
醉く。おあつぐひと志いし。打あひく傷つりものもまれば。ちりせりえん爲  
小ありぬと欺へ。亂時大は焦燥く。彼ホ犯人を守るが。酒を貪り同打  
をいところを越度あれい。いでこれいさく。流めんと旬旬て。乃引提つ小暗  
と廊下を走りあつを。平九郎の杖戸の蔭小躲居く。遺すドし。下  
と切る。憐れし。亂時ハ。臆より膳す。乾竹割り切作れ。躲これる。兩段  
小ありぬ。志いしもあつと。電鞠ハ。彼此とん探りく。二十兩の金も棄て  
足を翹鮮血と踏く。出まの。賊布と打つり。父小えこれハ。盛景亮余と  
ちく。伊庭が從者の蓑笠と取く。電鞠もうちら被せ。輒くこを脱と  
去く。後より山越小洛孤投り走りま。此夜ハ。通霄雨しく降り。雲時

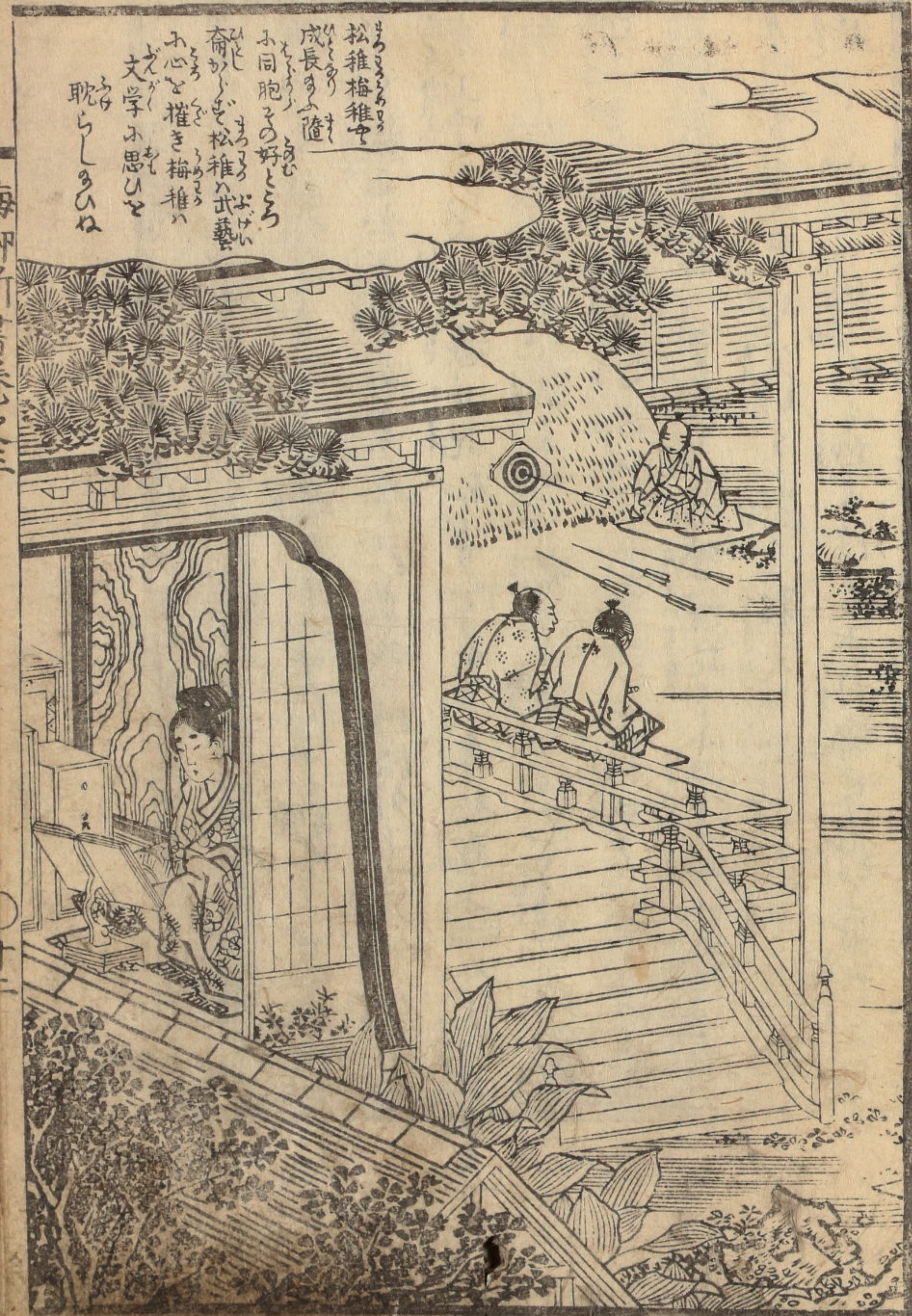
も小止り。村長が。園宅の男女ハ。さる庵溜のうも聞れば。いさく。この  
と志い。天明後のおか。さるの書つ。いふら。しけ。い。略ぬ。

七 松雅九 潜り白川山小獵

この時華洛北白川小。松雅九十七歳。梅雅九十五歳。小ありひね。兄弟  
戈器世小勝とく。そのをさ。松雅ハ。多武藝と好く。只顧  
弓馬劍法と事し。梅雅九ハ。その性文事ハ。嗜く。日夜讀書筆  
小ありし。し。父の惟房朝臣ハ。年耳子。この行ひ。心とつ。つ。く  
尋思。い。い。む。し。父義小。仗り。行雅の。一命。を。既。了。敷。山  
月林寺小。登り。祝髪せ。せ。い。も。彼人出家の。行。と。あ。い。い。  
逐電。ち。今。小。その。往。方。と。せ。し。朝家の。崇。が。家。及。が。る。の。こ。ま。あ。い。  
幸あり。と。い。く。七父の。志。忽。地。徒。り。なり。冥土黄泉の。下。あ。く。も。は。こ。そ

朽すくおぼさるめ。せめくこ子もど一人の出家に。行盛一家の後世に  
吊せむやとく。まづ斑女前小情由と告。さて宣ふを。松稚の彌子ありて公  
させんおは彼その番小稱へ。おれは今より仲圓阿闍梨小進せ。經  
をも讀習とせむもおりせ。このゆいふあぶと宣へ。斑女前も丈夫  
の言語悉理あふ推辭とく。殊より行稚の往方あくなり。おれを驚かす  
おつりせ。出家せんと宣ふと志のたぐ。不覚涙落涙あひたり  
らとせ。梅稚へ去来の春より敷山月林寺の仲圓阿闍梨小あり仕  
行童の如くあ。在りた。え来との容姿の艶く。ゆい。用んとも春  
の花圓かんとする。秋の月あも比ふ。よりの女子あ。え。す。け。こ  
風情あ。と無下小法師より。あ。あ。せん。いと惜と。こ。あ。り。と人みな

やあつれとかん。是はさておれ仁科平九郎盛景へ。影の江の御あ。伊庭十郎  
主従を欺と殺。龜鞠は持。同道より華浴より。西の洞院六角のあ。と  
お。ゆり。空房あるを借得。こ。居。と。その氏。更。赤石平九郎と  
名告り。豫へ彼三十金をり。龜鞠が衣裳の料。彼。白拍子  
とせ。容易世とせ。お。ひ。た。ふ。浴。上。り。と。海。より。  
龜鞠。風のこ。ら。と。く。打。卧。る。が。次第。病。劇。ち。なり。と。醫師。も。い。く  
たり。と。あ。り。の。と。お。ふ。と。る。癩。病。の。重。と。なり。と。い。ふ。平九郎。余。綱。も。お。れ。  
あ。る。女。見。の。いと。危。く。ん。ゆ。ふ。安。さ。と。知。も。なく。熊。膽。真。珠。人。参。の。あ。い。ひ。  
と。と。く。價。不。拘。り。と。も。よ。れ。と。い。ひ。秘。の。禁。劑。と。用。ふ。件。の。金。も。忽。地。小。遣。書。し。  
些。の。衣服。調。度。よ。り。た。と。く。悉。く。沽。却。と。家。の。あ。は。は。居。と。い。ひ。舊。の。空。房。と  
異。あ。と。か。く。神。を。月。の。上。旬。あ。及。く。龜。鞠。が。病。着。中。お。こ。り。果。平九郎を



松雅梅雅  
 成長多し  
 小同胞の好む  
 奇れい松雅の武藝  
 小心と権き梅雅の  
 文学小思ひ  
 耽らしむひね

海印新書卷之三



海印新書卷之三

女堵ね。よれど山田の晩稻苜乾きとて。歳の豊けきをとりあら。今一椀の飯ふえく。千度ふの音を度えく。ふせとり。夜を更す。よれもなし。かゝるいひ。いもみまそ。たのめ。く。亀鞠を白拍子よみ。こたす。されともく平人の妻なごふせん。いと打を。とやせほ。かやせほ。と。頻ふを苦めり。あゆまら。の。路外。一つの奇談あり。さ。白川の東。山中。と。村の長。女兒。ひとり。年。紀。既。二。八。容。止。又。醜。父母。これ。み。塔。を。擇。ひ。媒。と。る。人。も。多。り。され。終。彼。女兒。を。幼。家。小。養。小。厮。何。と。あ。び。く。相。語。水。り。せ。ほ。じ。契。を。父母。と。え。く。あ。り。け。て。替。縁。定。不。及。彼。小。厮。の。主。の。女。兒。を。誘。り。も。走。り。父。い。怒。夥。人。を。出。追。出。せ。志。じ。も。あ。り。手。戻。小。厮。を。縛。ら。も。殺。と。げ。り。不。打。擲。せ。終。彼。憤。不。堪。う。ら。その

夜。づ。ら。古。と。嚙。死。り。女。兒。の。父。母。を。み。小。厮。を。良。く。忽。地。お。れ。う。り。出。村。稍。盡。る。池。ふ。入。り。遠。ふ。か。の。泡。と。消。ぬ。と。い。ふ。あ。や。兩。の。ま。げ。あ。り。日。も。又。も。文。が。れ。あ。る。彼。女。兒。が。幽。魂。池。の。畔。小。立。何。れ。と。い。ふ。も。あ。り。と。て。只。曇。く。風。声。と。平。九。郎。親。子。の。物。語。を。傳。は。す。彼。村。長。が。愚。の。淺。く。う。る。を。冷。笑。ひ。り。この。日。小。春。の。天。と。藤。な。り。は。亀。鞠。へ。久。く。寝。乱。と。れ。髪。を。梳。ら。ん。と。鏡。を。對。ひ。顔。色。の。瘦。衰。と。れ。数。回。歎。息。父。母。を。う。り。や。男。子。病。と。れ。家。衰。へ。病。と。れ。色。衰。み。今。り。が。病。と。れ。父。い。う。貧。く。あ。り。ま。り。急。を。救。の。智。廟。を。用。さ。り。病。の。愈。も。貧。の。病。の。治。か。じ。顔。色。の。衰。を。を。こ。ん。と。それ。つ。れ。謀。あり。彼。山。中。村。の。長。が。女。兒。入。水。で。後。池。の。畔。小。幽。魂。の。立。あ。り。と。風。声。と。幸。あ。れ。年。才。習。は。る。能。優。

去々彼幽霊は打扮その処をいさして付来の人を敬馬さる。里人のいひもさる。
 豫々少少怖る旅人。木周章と遊まふ。或の行李と遺と。或の懐の物。
 落し走りまふ。その時父迹あつた。拾ひあつて。拾ひあつて。
 此の得つるもの。あつた。この謀計いふ。付く。平九郎大に。
 寔に身は。子まふ。女色無は。少女なり。さうせん。次の日。
 より親子あり。山中小村の池の畔。到。電鞠の年。擾の塵。あり。
 裡に。平九郎の山の蔭。ついで。合圖と定め。人の事。成。れ。父。
 其の暗号。電鞠の白と內衣と被。長なる墨髪。あり。乱。や。塵。
 より。松尾花の中。立。在。物。ま。い。る。さ。る。さ。る。し。形容。更。
 世の人。も。おげえ。と。閻王廳前。の。呵責。と。脱。と。あ。り。秋。と。し。怨。を。陽。人。
 小訥。陰鬼。あ。じ。も。あ。る。さ。る。さ。る。さ。る。さ。る。さ。る。人。魂。を。し。あ。い。遊。ま。い。て。

去々物。の。落。る。も。あ。り。と。平九郎。の。後。方。より。落。せ。る。拾。ひ。
 折。り。の。物。あ。る。も。あ。り。と。さ。る。さ。る。さ。る。さ。る。さ。る。さ。る。
 だ。れ。の。傳。へ。の。さ。る。さ。る。さ。る。さ。る。さ。る。さ。る。
 乱。草。人。を。招。き。暗。螢。霜。の。と。あ。ら。ば。平九郎。親。子。と。あ。
 ち。も。似。と。む。さ。る。さ。る。さ。る。さ。る。さ。る。さ。る。
 も。松。稚。丸。の。從。者。僅。小。雨。と。人。と。將。終。日。白。川。山。小。追。鳥。獵。日。も。中。暮。
 る。と。さ。る。さ。る。山。を。し。ま。し。ま。し。ま。し。ま。し。ま。し。ま。し。
 此。の。山。中。の。西。なる。池。畔。近。曾。怪。物。の。出。る。と。申。の。刻。より。
 山。を。下。り。の。ほ。し。西。傍。り。晝。も。山。の。腰。を。め。つ。り。も。早。暮。
 お。ま。り。山。巔。の。家。小。歇。詰。朝。洛。の。ゆ。り。ま。し。と。い。ふ。松。稚。點。頭。
 も。その。の。を。さ。る。さ。る。さ。る。さ。る。さ。る。さ。る。人。死。さ。る。と。い。ふ。三。魂。天。小。昇。六。魄。地。

ゆりあつて人間小猶祥とて理なり。なまに臨終の悪念成りて或は  
小怨と述或は夢小救と徴する。あつてよりのひいけめとて舞くは孤狸  
こそとられぬ。真の冤鬼ありとぞ。これ今彼処とる序。その生い為を  
まへと宣は彼男呆と果いとてくくええあふ。くも膽の太人  
こそおのせ。よくなれちうくつて。可惜命とれあまといひて。走り  
たれは松稚一人の従者とえろく。汝はそれより先おまへく。箇様く  
よ。それその穢ふ臨と謀ありと仰それの彼人のこころをひく。遠く走りぬ  
より。松稚又殊二人の従者と道次お退け。その方の樵夫のこころの捷徑  
より。彼池ちうくまへへ入相の鐘遠くせえく。高峯の懸いと寒くし  
平九郎のこの五七日。くえく人ふあつて。目今松稚の従者。只ちうま  
れをくく。竊ふ欲び。くやとれとあつて。それの龜鞠つと生く。薄の中



世

